

水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、前年度同様、安定的に事業を継続していくために、老朽化が進む配水管や浄水施設機器の更新、水道施設耐震化などに加え、人工衛星とA Iを活用した水道管の漏水調査等を実施している。財政面では、主に家庭で使用される小口径において、使用水量に応じて徴収する従量料金は4年連続で減少したものの、給水戸数の増加により基本料金収入が増加し、店舗・病院等の大口需要家からの料金収入も増加したことにより、料金収入は微増している。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	令和6年度	令和5年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域内人口 (人) A	282,289	283,093	△804	△0.3
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口 (人) B	272,987	273,688	△701	△0.3
普及率 (%) B/A	96.7	96.7	0	
導送配水管延長 (m)	1,420,568	1,416,535	4,033	0.3
職員数 (人)	74	75	△1	△1.3
※()内は短時間勤務職員数で外数	(5)	(3)	(2)	
総給水量 (m ³)	27,055,049	27,264,706	△209,657	△0.8
給水能力 (m ³ /日) C	146,790	146,790	0	0
1日平均給水量 (m ³) D	74,123	74,494	△371	△0.5
1日最大給水量 (m ³) E	80,083	80,056	27	0.0
施設利用率 (%) D/C	50.5	50.7	△0.2	
最大稼働率 (%) E/C	54.6	54.5	0.1	
負荷率 (%) D/E	92.6	93.1	△0.5	

(2) 給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口及び現在給水人口は、前年度に比べともに減少している。

普及率は、給水区域内人口の減少と現在給水人口の減少が同程度だったため、前年度と変わらず96.7%となった。

(3) 水道施設の利用状況について

施設利用率は、施設の平均的な稼働状況を示すものである。給水能力は前年度と変わらないが、1日平均給水量が減少したことで、0.2ポイント低下した。

最大稼働率は、1日給水量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、1日最大給水量が増加した結果、0.1ポイント上昇した。

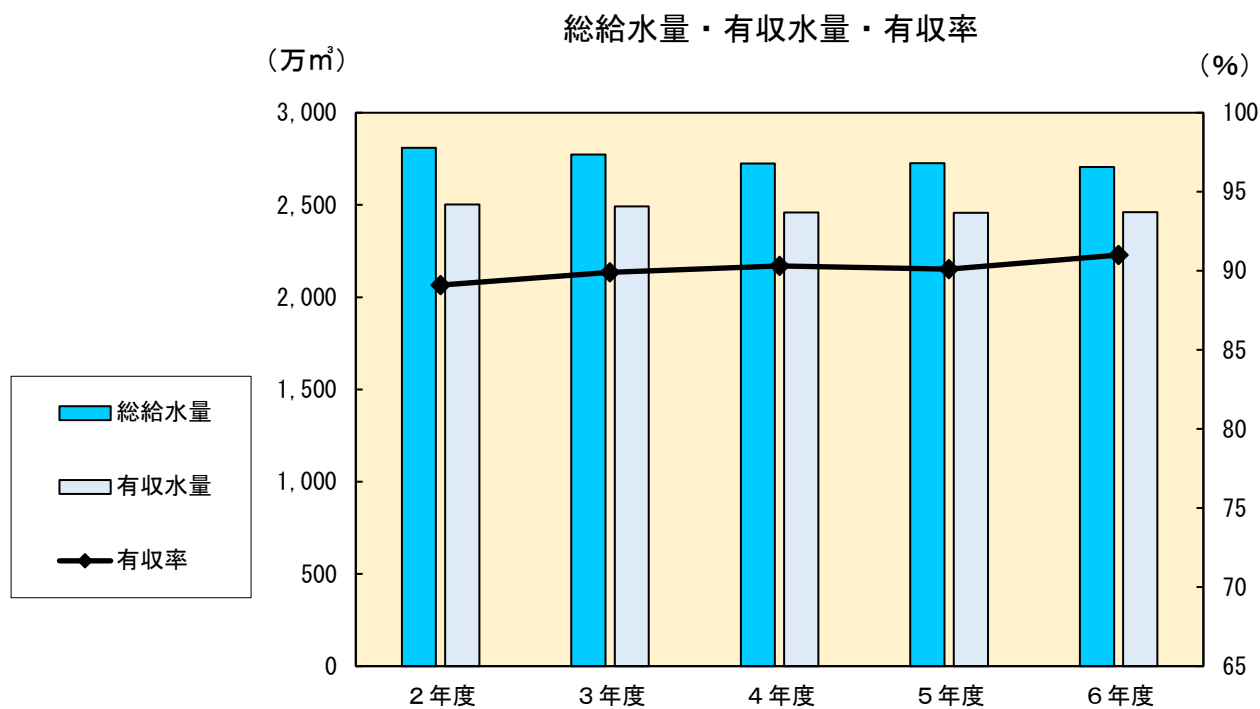
負荷率は、施設の効率を示す指標であり、1日最大給水量に対する1日平均給水量の比である。1日最大給水量は増加したが、1日平均給水量が減少した結果、0.5ポイント低下した。

(4) 総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度比 209,657 m³の減少となっている。主な要因は、捨て水などの料金徴収をしない無収水量の減少(100,897 m³)と、配水管からの漏水などの無効水量の減少(151,018 m³)である。

総給水量に対する有収水量の比率である有収率は、91.0%と前年度より 0.9 ポイント上昇している。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位：m³・%)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総給水量 A		28,089,099	27,730,126	27,246,299	27,264,706	27,055,049
有効 水量	有収水量 B	25,024,237	24,919,327	24,591,669	24,570,777	24,613,035
	無収水量	1,321,829	1,574,756	1,626,152	1,640,973	1,540,076
無効水量		1,743,033	1,236,043	1,028,478	1,052,956	901,938
有 収 率 B/A		89.1	89.9	90.3	90.1	91.0